



スーパードルキーに洗礼

マツゲン箕島・奥田貫太投手

結果は悔しくとも、鮮烈なインパクトを残した。

全日本クラブ選手権を制し、悲願の初勝利を目指したマツゲン箕島。西川忠宏監督は、企業チームの名門・NTT東日本との1回戦の先発マウンドへ、ルーキー右腕、奥田貫太を送り出した。

「自分の直球がどこまで通用するのか、向かっていきたい」

大会前に語った「公約」通り、初回からエンジン全

開。初球は自己最速タイの150キロの直球でいきなり球場を沸かせた。その後は高めに浮いた変化球を捉えられ2点を失ったが、踏みとどまった。

初回の緊張感も解け、二回以降は力強さに粘り強さも見せた。三回には初回に先制適時打を許した向山基生への初球に、自己最速を更新する152キロをマーク。この回は得点圏に走者を背負いながら、直球に加えて芯を外すカットボール

もさえわたり、ピンチを封じて拳を何度も握った。

だが鮮烈デビューもここまで。五回は相手の中軸に自慢の直球を次々と捉えられ、2点を追加されて降板。全国の洗礼を浴び、天を仰いだ。

花園大を卒業し、今季からマツゲンに入社。普段はスーパードルキーで働き、品出しなどの業務をこなしながら、野球に励む日々。大学時代から常に全力投球が身土だったが、社会人野球の世界で勝ち抜くために緩急や力配分を調整するなど「大人」の投球も身につ

けてきた。全日本クラブ選手権の準決勝では強豪の東和高校相手に8回無失点の好投も見せた。

敵しさを味わった京セラドーム大阪のマウンドでの経験を、来季の飛躍に生かしたい。
【牧野大輔】